

テレビ静岡開局 50周年記念

フランス宮廷の磁器

セーヴル、創造の 300 年

300 ans de création à Sèvres: Porcelaine de la Cour de France

Sèvres

CITÉ DE CÉRAMIQUE



ポプリ壺「エペール」 1757年 セーヴル陶磁都市所蔵

Photo©RMN-Grand Palais (Sèvres, Cité de la céramique)/Martine Beck-Coppola/distributed by AMF

2018年10月6日(土)~12月16日(日)

【プレスリリースのお問合せ】 展覧会担当：吉田・太田 広報担当：岡田・大庭

静岡市美術館

SHIZUOKA CITY MUSEUM of ART

〒420-0852 静岡市葵区紺屋町17-1 葵タワー3F

Aoi Tower 3F, 17-1, Kouya-machi, Aoi-ku, Shizuoka, 420-0852 JAPAN

tel. 054-273-1515 (代表) fax. 054-273-1518 www.shizubi.jp

テレビ静岡開局 50 周年記念

フランス宮廷の磁器

セーヴル、創造の 300 年

Sèvres
CITÉ DE CÉRAMIQUE

300 ans de création à Sèvres: Porcelaine de la Cour de France

会期:2018 年 10 月 6 日(土)~12 月 16 日(日) 62 日

休館日/毎週月曜日(ただし 10 月 8 日(月祝)開館、翌 9 日(火)休館)

開館時間 10:00~19:00(展示室入場は閉館の 30 分前まで)

観覧料 一般 1,200(1,000)円、大高生・70 歳以上 800(600)円

中学生以下無料

* ()内は前売および当日に限り 20 名以上の団体料金

* 障がい者手帳等をご持参の方および介助者原則 1 名は無料

●毎週木曜・土曜はトークフリーデー!

* 前売券:8 月 17 日(金)から 10 月 5 日(金)まで販売

* 夜店市(8 月 10 日~12 日)限定、抽選つき前売り券発売!!

主催:静岡市、静岡市美術館 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団、テレビ静岡、中日新聞東海本社

企画:セーヴル陶磁都市

後援:静岡市教育委員会、静岡県教育委員会、在日フランス大使館、アンスティチュ・フランセ日本、静岡日仏協

会 協賛:大日本印刷 協力:日本航空、日本通運

ヨーロッパ磁器の最高峰の一つ、セーヴル磁器は、フランス国王ルイ 15 世 (1710-74) の庇護を受け、1740 年、パリ東端のヴァンセンヌに誕生した軟質磁器製作所が、西端のセーヴルへ移転して王立磁器製作所となったことに始まります。1769 年には硬質磁器の開発に成功し、宮廷の画家や彫刻家が招かれて、ポンパドゥール侯爵夫人やルイ 16 世とその王妃マリー・アントワネットに納められたほか、外交上の贈答品としてロシア皇帝エカテリーナ 2 世らの王侯貴族を魅了しました。フランス革命を経てナポレオンが台頭すると、セーヴルは新古典主義の作品を製作し、19 世紀半ばからの万国博覧会の時代にはテーブル・ウェアという範疇にとどまらない作品へ展開します。芸術家やデザイナーとのコラボレーションも盛んで、20 世紀初頭には、セーヴル初の外国人の協力芸術家の彫刻家として沼田一雅 (1873-1954) が、現代ではピエール・スーラージュや草間彌生などが招かれて製作に携わっているのです。本展は今なお最先端の磁器芸術であるセーヴル磁器の 300 年に及ぶ伝統と創造の軌跡を、セーヴル陶磁都市の優品約 130 件で紹介する日本初の大規模展です。この機会にぜひご堪能ください。

【みどころ】

- ・ポンパドゥール侯爵夫人や王妃マリー・アントワネットなどヨーロッパの王侯貴族たちを魅了した名器が一堂に！
- ・セーヴル磁器製作所の 300 年に及ぶ伝統と創造の軌跡を、約 130 件の名品で紹介する日本初の大規模展！
- ・20 世紀初頭には、セーヴル初の外国人の協力芸術家の彫刻家として沼田一雅^{ぬまたいちが} (1873-1954)が招聘されます。セーヴルと日本の知られざる交流を紹介！
- ・マリーアントワネットから草間彌生まで、まさに伝統と創造、必見！今なお斬新なセーヴルの多彩な技術、超絶技巧!!。

第1章:18 世紀のセーヴル

ヨーロッパで磁器への憧れが大いに高まったのは、18 世紀です。セーヴル磁器の活動は 1740 年にパリ東端のヴァンセンヌに生まれた軟質磁器工房がその始まりです。強大な権力を誇る国王ルイ 15 世の庇護を受けて、パリとヴェルサイユの間に位置するセーヴルへと移転した製作所は、王立の磁器製作所となり 1769 年には硬質磁器の開発に成功します。宮廷に愛された画家や彫刻家が招かれて知的で洗練された作品を生み出し、ルイ 16 世とその王妃マリー・アントワネットに納めたほか、外交上の贈り物としても用いられ、ロシア皇帝エカテリーナ 2 世をはじめとした王侯貴族を魅了しました。



「リボンのデジュネ」、通称「パーヴェル・ペトロヴィチのキャバレ」1772-1773 年 セーヴル陶磁都市所蔵
Photo © RMN-Grand Palais (Sevres, Cite de la ceramique) / Droits reserves / distributed by AMF



「ジョウロ」装飾：アントワーヌ・カトン (1749-1798 年セーヴルに絵付け師として在職) 1755 年 セーヴル陶磁都市所蔵
Photo © RMN-Grand Palais (Sevres, Cite de la ceramique) / Martine Beck-Coppola / distributed by AMF



「皿(「ロシア皇帝エカテリーナ 2 世のカメオとイニシャルのセルヴィス」より)」シャルル＝ニコラ・ドダン (1734-1803) 1778 年 セーヴル陶磁都市所蔵
Photo © RMN-Grand Palais (Sevres, Cite de la ceramique) / Martine Beck-Coppola / distributed by AMF

第2章:19 世紀のセーヴル

フランス革命の混乱を経てナポレオンが台頭すると、セーヴルは新古典主義の作品を製作します。19 世紀半ばからの万国博覧会の時代にはテーブル・ウェアという範疇にとどまらない作品へ展開しました。絵画的で、確かな写実性を備えた描写力からは時の流行のみならず、技術の高さがうかがえます。



壺「テリクレアン」器形：ジャン＝シャルル＝フランソワ・ルロワ（1774-1846）／装飾：ピエール＝ジョゼフ・ルドゥーテ（1759-1840）1842 年 セーヴル陶磁都市所蔵
Photo © Sevres, Cite de la ceramique, Dist. RMN-Grand Palais / Gerard Jonca / distributed by AMF



「デザート皿《貝》（「自然の産物のセルヴィスより）」ジャン＝フランソワ＝アンリ・フィリピヌ（1771-1840）1835 年 セーヴル陶磁都市所蔵
Photo © RMN-Grand Palais (Sevres, Cite de la ceramique) / Martine Beck-Coppola / distributed by AMF



「ペールの薄手のコーヒーセット《ノルマンディーの風景》」器形：ジュール＝コンスタン＝ジャン＝パティスト・ペール（1811-1871）／装飾：ポリクレス・ラングロワ（1814-1872）1855 年 セーヴル陶磁都市所蔵
Photo © RMN-Grand Palais (Sevres, Cite de la ceramique) / Martine Beck-Coppola / distributed by AMF

第3章:20 世紀のセーヴル

デザイナーとのコラボレーションがはじまり、アール・ヌーボー、アール・デコの時代は特に、磁器の透光性や軽量性を活かして、照明器具の制作にも取り組みました。また日本との交流では、20 世紀初頭に外国人作家として初めて、**沼田一雅**（1873～1954）が型の製作に携わりました。沼田は東京美術学校教授、帝室技芸員をつとめ、東京美術学校名誉教授正木直彦の胸像などで著名な彫刻家です。



「ダンサー No. 13」(テーブルセンターピース「スカーフダンス」より) アガトン・レオナルド (1841-1923) 1899-1900 年 セーヴル陶磁都市所蔵 Photo © RMN-Grand Palais (Sevres, Cite de la ceramique) / Martine Beck-Coppola / distributed by AMF

「象とねずみ」 沼田一雅 (1873-1954) 1906 年 セーヴル陶磁都市所蔵 Photo © RMN-Grand Palais (Sevres, Cite de la ceramique) / Martine Beck-Coppola / distributed by AMF

第4章:現代のセーヴル

伝統的なテーブル・ウェアの製作と併せて、現代作家とのコラボレーションも積極的に行われています。例えば抽象絵画のセルジュ・ポリアコフ、アレクサンダー・カルダー、ピエール・アレシンスキーなど、彫刻では、2000 年にフランス共和国大統領の依頼で日本の大相撲の優勝賜杯の一つとして制作された「スーラージュの壺」を作ったピエール・スーラージュや、日本の造形作家・**草間彌生**の「ゴールデン・スピリット」があげられます。セーヴルの伝統と創造、今なお新しい理由はここにあるといえるでしょう。

「セーヴル陶磁都市」について



2010 年に国立セーヴル磁器製作所と国立セーヴル陶磁美術館が統合され、フランス文化通信省管轄の施設「セーヴル陶磁都市」ができました。この母体の一つで 1824 年に設立した「国立セーヴル磁器美術館」は 5000 点近いセーヴル磁器を所蔵しており、本展出品作は「国立セーヴル磁器美術館」以来の品が中心となっています。

【関連事業】

*講演会「セーヴルって？ーセーヴルがしてきたこと、今していることー」

日時：11月10日（土）14：00－15：30（開場 13：30）

講師：北野珠子氏（東京藝術大学大学院美術研究科 文化財保存学専攻 准教授）

会場：当館多目的室 参加料：無料 定員：70名（応募多数の場合は抽選）

申込締切：10月25日（木）必着

「スーラージュの壺」を修復した、気鋭の修復家で東京藝術大学准教授の北野珠子氏を招いて、セーヴルのかしこい技を紹介。

◎申込方法

当館 HP 申込フォーム（www.shizubi.jp）または往復はがきにて。1件につき4名様まで。

※往復はがき記載事項

①催事名、催事日 ②氏名（参加人数分） ③年齢 ④住所（郵便番号から） ⑤電話番号、返信面に宛先を記入の上、静岡市美術館まで。（抽選の如何にかかわらず結果は通知いたします。）

*しずびちビッコプログラム

日時：11月24日（土）①10：30－12：00 ②14：00－15：30

対象：2歳以上の未就学児 各回10名

参加料：500円（保護者は要覧観覧）

会場：当館ワークショップ室

申込締切：11月8日（木）必着

※申込方法、詳細は当館 HP をご覧ください。



静岡・音楽館×科学館×美術館 共同事業

静岡 室内楽フェスティバル2018

*ミュージアムコンサート 気軽にモーツァルト

日時：10月14日（日）15：00－16：00（開場 14：30）

会場：当館多目的室 全自由1000円 定員70名

チケット取り扱い：7月29日（日）より当館受付窓口、静岡音楽館 A01 インフォメーション（7F）にて販売 Tel.054-251-2200（月休）